

# 古き学び舎の風景を残しながらつくる新庁舎こそが 下田の未来へのメッセージになります

## □ワンストップを中心とした、誰にでもわかりやすいコンパクトな庁舎 (テーマ1)

- ・地域の資源である旧稻生沢中学校を最大限活用し、既存の校舎（活用棟）と既存の体育館（執務棟）、新築の議会棟の3棟をワンストップ窓口のあるボリュームで一体化した新しい庁舎を提案し、地域の記憶を継承します。



## □住民のかつての学び舎（校舎＋体育館）を残し、地域の精神的な景観を重視した外観 (テーマ1)

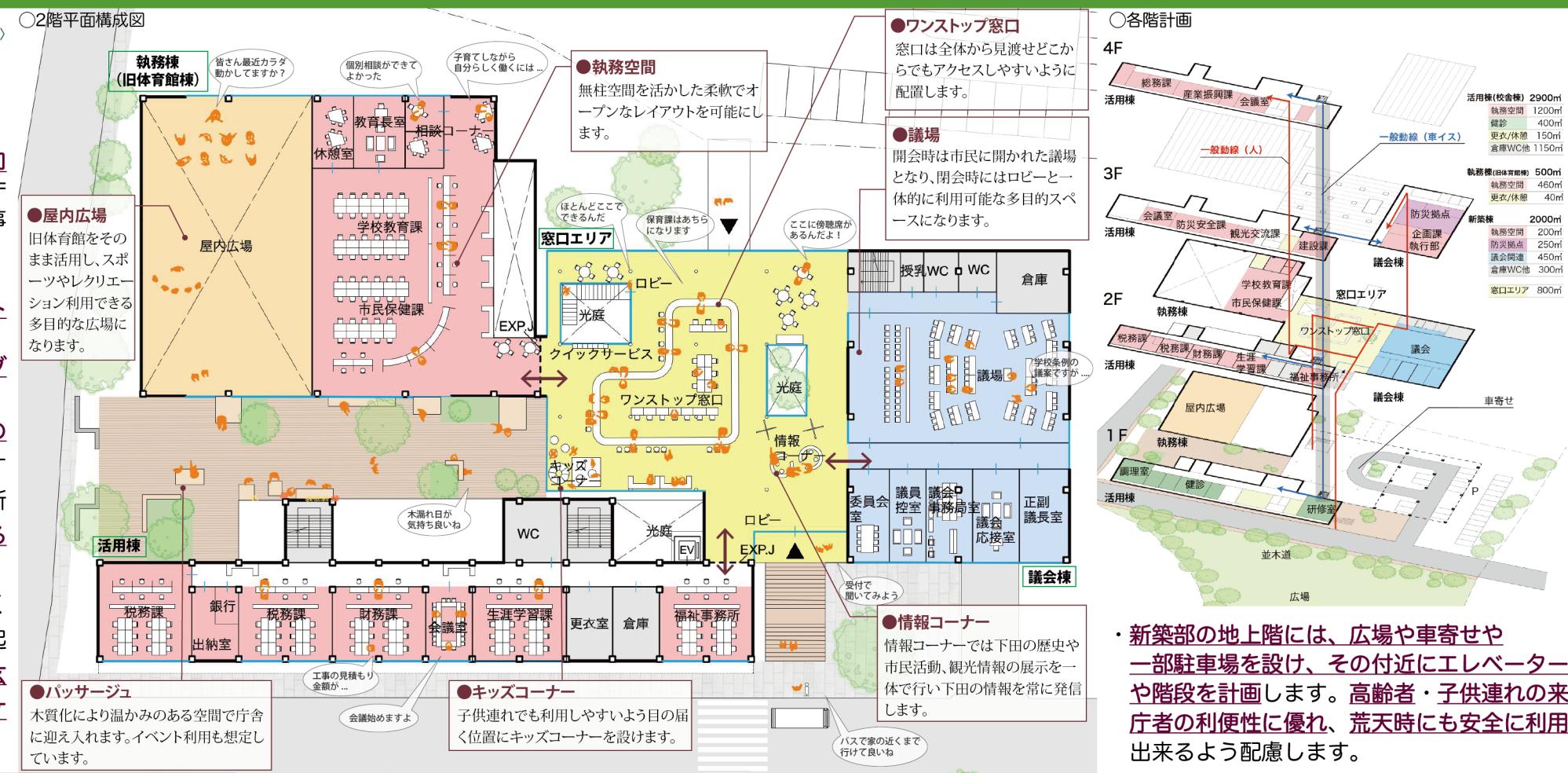


- ・2022年3月で廃校になった旧稻生沢中学校は、75年間この地区を見守ってきた地域の財産です。この学舎の面影をそのまま残した外観にすることで、周辺環境との景観的調和をはかり、サステナブルで、皆から引き続き愛される庁舎を目指します。
- ・体育館の壁画を残し、地域の人々の大切な記憶を引き継ぎます。
- ・校門跡は下田の伝統的な建材の伊豆石を使ったタイルで補修します。



## □各地区の人・出来事をつなぎ、多世代交流を促す「みんなのパッサージュ」と「屋内広場」 (テーマ1)

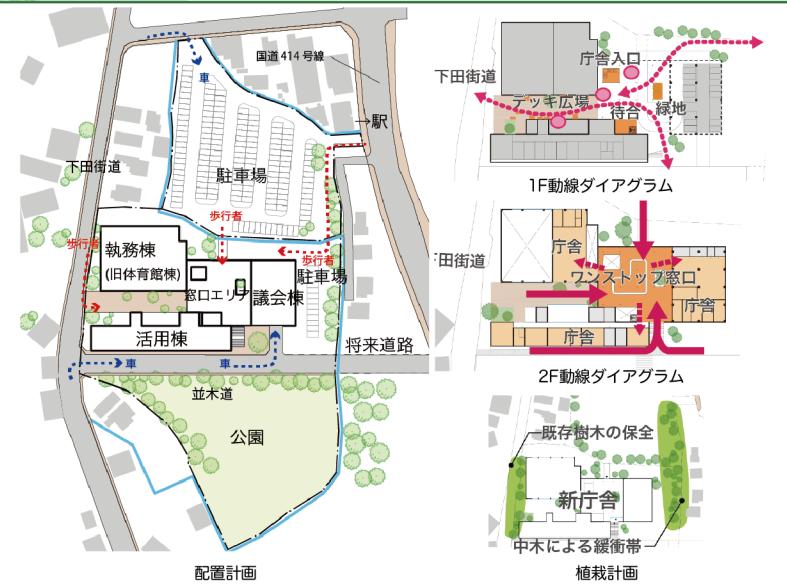
- ・下田全体では、河内・蓮台寺地区と下田地区に人口集中し、その他の市民の方々はいくつかの地区に分散して生活しています。また、敷地周辺は高校や小学校があるにも関わらず、ふらっと立ち寄れる場所がありません。
- ・既存体育館を残すことで、半分はそのまま「屋内広場」として活用します。イベントや、学生の放課後活動、地域のサークル活動で利用できます。
- ・旧校舎棟と体育館棟に挟まれた場所は、人に近い高さまで木質化し、ベンチや植栽を設置した「パッサージュ」とします。来訪者や地域の学生、住民が交流できる場所をつくります。



- ・新築部の地上階には、広場や車寄せや一部駐車場を設け、その付近にエレベーター や階段を計画します。高齢者・子供連れの来庁者の利便性に優れ、荒天時にも安全に利用出来るよう配慮します。

## □敷地周辺の環境に多層的に対応した配置・動線計画 (テーマ1)

- ・敷地は、西側に通学路としても使われているバス通りがあり、東側には蓮台寺への玄関口である蓮台寺駅が位置しています。また将来的に敷地を横断するように国道が計画される可能性があるため、多様な人々、方向性に対応した配置・動線計画を心がけます。
- ・この敷地がもつポテンシャルを活かすために、2Fレベルではワンストップ窓口等を中心とした求心的プラン、地上レベルでは界隈性をもつ通り抜け型プランとすることにより多層的なにぎわいと利便性を創出します。
- ・下田街道沿いに生えている既存樹木は全て残し、また戸建住宅の建つ敷地東側には目隠しとなる中木を配置し周辺環境との緩衝帯をつくります。
- ・水路や赤道に隣接する敷地要件を十分理解し、土地の区画形質の変更を行わない配置とし、開発申請が生じないよう配慮した計画とします。



## □浸水対策を万全にし、地域のコミュニケーションの場となる明るい地上階 (テーマ2)

- ・洪水による水没被害を防ぐため、新しい庁舎のメインの空間を2階以上に持ち上げ、災害時でも庁舎の重要機能や設備が水没せず機能するような建物とします。
- ・暗くなりがちな1階部分は、垂直動線を兼ねた光庭を設け、明るい空間となるよう配慮します。
- ・下田街道～蓮台寺駅をつなぐ通り抜けを設け、その道沿いにオープンスペースを計画することにより、日常的に賑わいある1階空間を目指します。



